

日本あちこち河川遡行記(第 235 回)

京都 1-2. 桂 川(その 1)平成 30 年 3 月 11 日(日)晴

木津川は京都府内だけとして一旦遡行の対象外とし、淀川二番目の大きな支流の「桂川」に足を向ける。木津川は三重県、奈良県も流域にした国際河川であるが桂川は京都府のみを流れる国内派である。広大な京都市の北東部から大きく迂回しながら最後は京都市の南西端近くで淀川に合流する面白い旅をする延長 107km の大きな川である。100km 以上もある長い川の最上流部と本川との合流点と同じ市であることに驚く。桂川と称する川は全国至る所に数多く有り相模川の上流も桂川である。その中の横綱が北山城のこの川である。

京阪八幡市駅に再び降り立つ。宇治川遡行時と木津川遡行時にスタートした駅で三河川合流点の最寄駅なので 3 回は利用することになる。駅東のコンビニでサンド等を買うが今日は日曜日でハイキング、サイクリングの客で一杯だ。踏切を渡り木津川に架かる「御幸橋」に向かう。足元のマンホールの絵柄は市の花の「さつき」のようだ。



01.八幡市は市の花「さつき」だ

大きな親柱に彫り込まれた読みでは「ごこうはし」と称する橋は、木津川と宇治川の両方にあり、双子のような橋である。それにしても立派な親柱である橋の完成までの困難や苦労、喜びをこの柱に表現したのであろう。



03.宇治川に架かる橋名も「御幸橋」だ 02.木津川に架かる橋名は「御幸橋」

両橋の間の東側にはサイクリングセンターのような建物と展望塔が有る。天候が良いので多くの人とバイクが立ち寄っている。ここは桂川と木津川を縦走する大規模自転車道の間地点である。



04.今日は自転車乗りが一杯だ

05.三河川の合流点が見える展望台

宇治川の御幸橋を渡りサイクリングロードに入る。道際には大きな注意書きの看板が立っており、1列走行、適度な速度での走行をと歩行者への配慮を促しているが、大半のライダーはわしゃ知らネーと横を速度を落とさず通過して行く。このロードは自転車・歩行者道とするのには幅が狭すぎる。多くの大規模自転車道を歩いてきたが、ここは「喝！」だ。一旦西に向かい直ぐにV字型にターンして桂川の左岸側を上流に向かう。



06.再び悪夢のサイクリングロードへ、
注意書きを無視するライダーが多い

07.木津川から来た道はこの先でV字
ターンして桂川沿いに嵐山へ

東側には周囲を圧倒する「京滋バイパス」の橋が宇治川から桂川を越えて大山崎JCTに延びている。この京滋バイパスは法令上複雑な道路で、国道1号、24号、478号の高規格道の連なりで最後の「久御山淀IC」～「大山崎JCT」はなんと名神高速の大山崎支線の扱いで、それぞれ建設手法、予算が異なる総力を結集した道のようなのだ。名神終点の西宮ICと阪神高速湾岸線との連結手法としてどの制度を採用するのか興味が湧く。川を越える「大山崎橋」の本川の東側には側道橋としての国道478号が一般道として通過している。478号は京都第二外環道として整備が進められている。元は淀川の遊水地であった広大な「巨椋池」の干拓地の存在が高規格道路の整備に役だったようだ。



08.手前の橋はなんと名神高速の枝線
なのだ

09.側道橋は国道478号で京都第二
外環道の一部だって

左岸側を東に進むと直ぐに八幡市から京都市伏見区に入る。春霞に煙る彼方には「比叡山（H=848m）」が見える。いよいよ春到来である。南側には京阪電鉄の大きな車庫が連なっている。京都方の車庫である。



10.春霞にかすむ彼方の比叡山

数日前に左足のふくらはぎに痛みが出たのでだましだまし歩いて来たが痛みが強くなってきた。どうやら肉離れを起こしていたようだ。府道 204 号の「宮前橋」に来ると右岸側の橋脚の耐震補強工事をしているのが見える。今時やるのは遅いのだが・・・。

府道を越えた所で痛みが激しくなりこの先の橋まで 3km 以上あり、ここから京阪淀駅まで 500m ほどなので無理は禁物と遡行を取りやめ緊急避難する。撤退だ！足を引きずりながら駅に向かう。



11.耐震補強工事中の「宮前橋」の彼方に「愛宕山（H=924m）」が見える

本日の歩行距離：4.3km。調査した橋の数：3。

総歩行距離：9,847.8km。総調査橋数：11,884。

使用した 1/25,000 地形図：「淀」（京都及大阪 7 号-2）